

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」

雪国体験授業 ～滑るスキーの風切る速さ～♪

年明けの17日（火）～19日（木）、1学年の宿泊行事“雪国体験授業”に行ってきました。昨年から新型コロナウイルスの流行が止まぬ中、一時は開催を断念しなければならないかといった状況もありましたが、万全の感染対策を実施した上で行事を行うことにしました。

学校を出発して3時間ほど、上信越自動車道のインターチェンジあたりでは降雪は見られなかったものの、菅平高原に入るや一変。バスでどうとしている人はビックリしたことでしょう。東京とは全く環境が異なり、あたり一面雪景色と外気温がマイナスの世界のもと、2泊3日のプログラムがスタートしました。

宿に到着後、開校式を終え、いよいよスキー体験の始まりです。技能別に分かれ、インストラクターの指導により、初心者はブーツやスキー板のはき方から始まり、初級者は緩斜面での直滑降といったレベルに応じた内容でした。滑って転んでの繰り返しもあったでしょう、しかし、最終日には、ほぼ全員がリフトに乗ってゲレンデを滑って降りられるまでに上達したようです。中には、奥ダボスゲレンデの頂上からシュナイダーゲレンデへとロングコースを風を切って滑り降りてくる人たちもいました。

また、宿舎での生活では「ホテル ベルニナ」の美味しくボリュームのある料理を堪能し、夜は雪国「菅平」の自然等についての講演を聞きました。3日目には、スキー実習以外にもクラフト製作や自然観察を体験するコースもあり、充実した生活を過ごしました。

閉校式では、三つの体験について話をしました。①天候に恵まれた3日間でしたが、朝晩はもとより日中も氷点下で、雪国で生活する方々の日常を肌で実感できたこと。②スキーが上達するまでには何度も転び、痛く冷たい経験をしたでしょうが、滑れるようになった時の達成感を忘れず、何事にもチャレンジすることの大切さ。③寝食を共にしたことで友人の違った一面を垣間見、一層の配慮や思いやりの気持ちをもつこと。

今回の行事は、多くの方の支えがあって実現できました。それらすべての方々への感謝の気持ちを忘れずに、そして、スキー技能の上達だけでなく、集団生活を通して一人一人がルールを守り、学年の絆を一層深め、協力する姿勢を身に付けたことと思います。この経験を今後の二松学舎での学校生活に生かしてくれることを願っています。

生徒たちの一回り成長した「自分」そして、「学年」を実感した雪国体験授業でした。

保護者の皆様には、行事実施前から様々ご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

